

日本学術会議地域研究委員会
地域学分科会
(第25期第7回) 議事要旨

日時：2022年9月18日 15:00～17:30

会場：ビデオ会議にて開催

出席者：小長谷有紀、松原 宏、矢野桂司、井口 梓、池口明子、岡橋秀典、小林 知
小山良太、近藤章夫、曾我 亨、田原裕子、中澤高志、増田 聡、水内俊雄
宮町良広、山崎孝史、吉田道代、佐無田光 (いずれも名簿順、敬称略)

議事概要

1. 前回(第25期第6回分科会) 議事録確認

第25期第6回分科会の議事録が承認された。

2. 報告

1) 池口明子 連携会員(横浜国立大学教育学部准教授)

「多文化教育と地域学－神奈川県愛川町での実践事例」

池口会員より、横浜国立大学における高大連携型の多文化教育カリキュラム開発を踏まえ、多文化教育における地域学では、生徒理解のためのエスノグラフィックな研究を核に、彼らの地域像へのオルタナティブを提示する地域調査や環境分析をおこない、多文化共生のための地域課題を生徒と教員がともに考える重要性が報告された。

2) 中澤高志 連携会員(明治大学経営学部教授)

『地理総合』の地域学：万葉集とハザードマップ」

中澤会員より、『地理総合』の防災と生活圏の調査に関する単元の授業案として、千葉県市川市の事例を踏まえ、多様な資料を活用し、文学、歴史、自然地理学、人文地理学を取り混ぜることで生徒の興味を引く重要性と、一方で授業を通して特定地域の災害リスクを明示してしまうため、実践としての難しさが報告された。

3) 小山良太 連携会員(福島大学食農学類教授)

「食と農と地域の連携

－福島大学食農学類における学生参加型実践教育の取り組み」

小山会員より、福島大学食農学類での事例を踏まえ、今後の地方大学での人材育成では課題解決型の実践的農学教育による食料・農業・農村問題へ主体的・革新的に対応できる人材を養成する機能が重要であり、そのために「農」に加え「地域」「食」にも関連する分野の教育を行える体制が必要であることが報告された。

3. 今後のスケジュールについて

宮町委員長より、分科会シンポジウムの企画と Good Practice 集の刊行について提案があり、承認された。